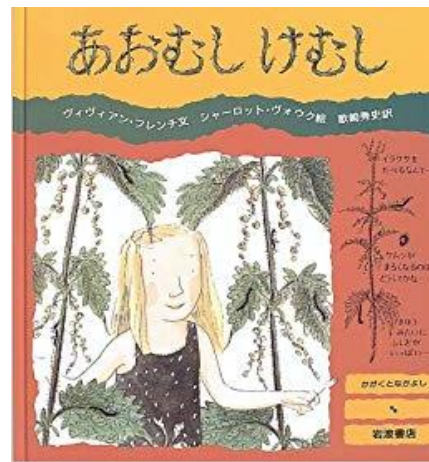


～読んでみない？こんな本～

あおむしけむし

ヴィヴィアン・フレンチ文 シャーロット・ヴォウク絵 歌崎秀史訳
岩波書店



そろそろ毛虫の出てくる季節になってきました。皆さんの周りにも毛虫の付いている木や草を見つけたことはありませんか？そしてあの毛虫が何になるのか、調べてみたことはありますか？

この主人公の女の子は、触るとチクチクするイラクサをおじいちゃんが抜かずにいるので不思議に思います。蝶が来るから抜かないのだと聞くとイラクサの葉の裏に小さな卵がたくさんついているのを見せてもらい、クジャクチョウかコヒオドシだろうと教えてもらいました。たいていの蝶は木や草の間を飛びながら1、2個の卵を産み付けていきますが、イラクサの好きなクジャクチョウやコヒオドシは、1箇所にとくさんの卵を産み付けていくそうです。女の子が観察を始めると卵はやがてかえり、小さな毛虫が出てきます。毛虫の様子は本文とは別に手書きの文でも説明があって、毛虫のことをたくさん知ることができます。（手で触ると危険なことももちろん教えてもらいますよ。）毛虫の種類や脱皮の様子などが詳しく書かれていて、普段はただ毛嫌いすることの多い毛虫の見方がちょっと変わるかもしれません。待ち遠しい気分です蝶になるのを見守ることができる絵本でもあり、事実にとったお話をちゃんと教えてくれる科学の本でもあります。